

1 調査名称：（綾瀬市）綾瀬市総合都市交通計画改定業務

2 調査主体：綾瀬市

3 調査圏域：綾瀬市全域

4 調査期間：令和5年5月18日から令和6年2月29日まで

5 調査概要：

本市では、「綾瀬市総合計画」及び「あやせ都市マスタープラン」に基づき、平成22年度に「綾瀬市総合都市交通計画」を改定したが、上位である両計画が令和3年に改定され、平成22年時点とは目標人口や、まちづくりの目標等が異なっている状況となっている。また、令和3年3月には東名高速道路綾瀬スマートインターチェンジの開通や社会情勢の変化など、本市を取り巻く交通環境や市民意識も変化していることから、将来のまちづくりを見据えた交通需要に対応し、望ましい交通体系の実現に向けて、令和7年度の改定を予定しているものである。

本業務では、改定を行うための基礎調査として、これまでの綾瀬市総合都市交通計画の検証や各種上位・関連計画を考慮しつつ、綾瀬市における都市交通の現状と課題等について整理する。

I 調査概要

1 調査名称：令和５年度綾瀬市総合都市交通計画改定業務委託

2 報告書目次

第１章 業務目的

- 1 調査の目的及び全体構成
- 2 業務概要
- 3 工程計画
- 4 実施体制

第２章 現況整理

- 1 都市特性の把握
- 2 移動特性の把握
- 3 上位・関連計画の内容把握

第３章 都市交通の現状

- 1 道路交通の現状
- 2 公共交通の現状
- 3 現行計画の評価・検証

第４章 都市交通の課題整理

- 1 都市交通を取り巻く社会動向
- 2 交通に関する技術・サービスの動向
- 3 綾瀬市全域における課題
- 4 地域別の課題
- 5 綾瀬市における都市交通の課題及び対応方針

第５章 市民意識アンケート

- 1 調査の目的
- 2 実施方法
- 3 実施期間
- 4 集計結果

第６章 審議会・庁内検討会議の開催支援

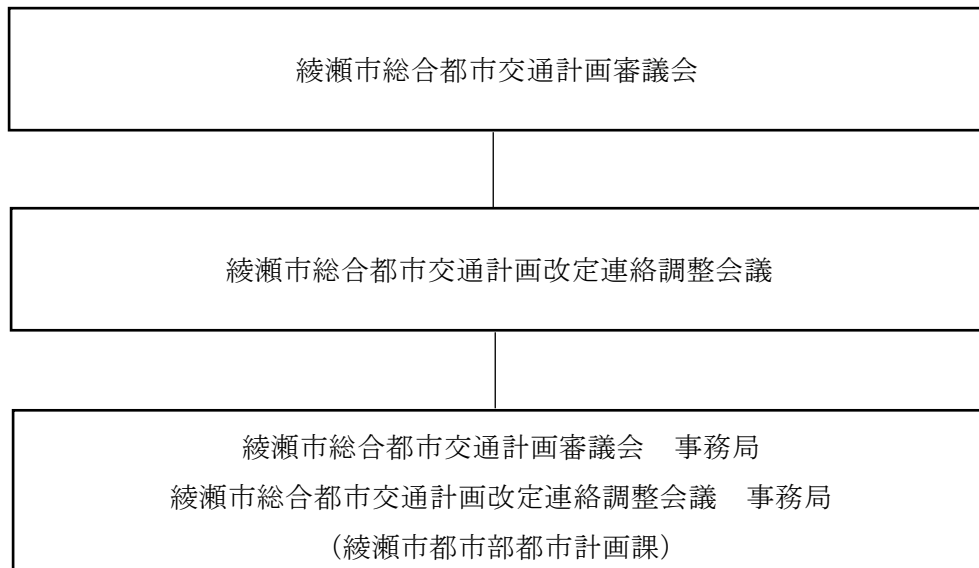
- 1 綾瀬市総合都市交通計画審議会の開催支援
- 2 庁内検討会議の開催支援

別冊１ 審議会スライド資料

別冊２ 審議会議事録

別冊３ アンケート調査結果

3 調査体制



4 委員会名簿等：

Ⅱ 調査成果

１ 調査目的

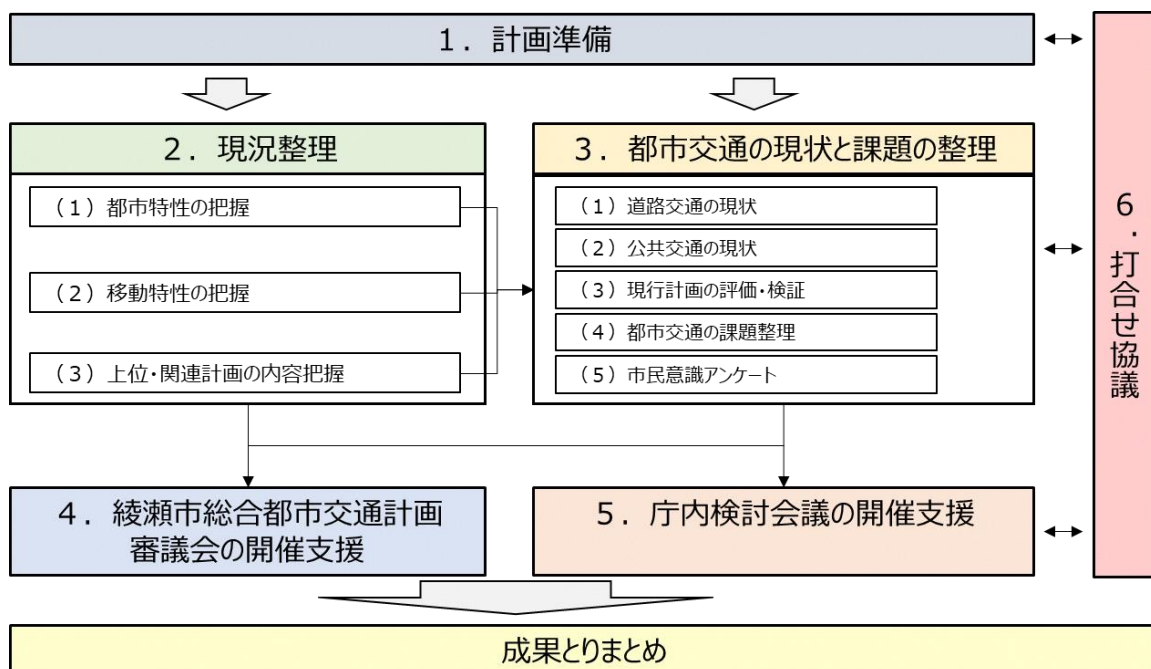
本業務は、「綾瀬市総合都市交通計画（平成２２年１２月改定）」について、改定を行うための基礎調査として、これまでの綾瀬市総合都市交通計画の検証や各種上位・関連計画を考慮しつつ、綾瀬市における都市交通の現状と課題についても整理を行うことを目的とするものである。

本調査は、以下に示す６つの調査項目から構成される。

<調査項目>

- ① 計画準備
- ② 現状整理
- ③ 都市交通の現状と課題の整理
- ④ 綾瀬市総合都市交通計画審議会の開催支援
- ⑤ 庁内検討会議の開催支援
- ⑥ 打合せ協議

２ 調査フロー



3 調査圏域図
(綾瀬市全域)



4 調査成果

4. 1 現況整理

4. 1. 1 都市特性の把握

綾瀬市における立地条件について、広域的な交通アクセス面から整理・把握するとともに、都市内における移動の制約要件や発生・集中する市街地特性について把握した。また、綾瀬市の都市基盤整備状況や産業特性等、総合的な交通体系を検討していく上で必要となる都市特性について整理・把握を行った。

4. 1. 2 移動特性の把握

平成３０年の東京都市圏パーソントリップ調査における綾瀬市に係る通勤、通学、私事、業務に関する移動量は約２０万トリップであり、目的別では、通勤の約４．４万人、私事が約４．２万人と多くなっている。

なお、発生交通量（綾瀬市内→綾瀬市外）では、通勤と私事目的の割合が高く、集中交通量（綾瀬市外→綾瀬市内）では通勤目的の割合が高い傾向にある。※帰宅目的は除く

表 目的別、目的地別交通量（単位：トリップ／日）

	綾瀬市内々	発生交通量 (綾瀬市内→ 綾瀬市外)	集中交通量 (綾瀬市外→ 綾瀬市内)	発生集中交通量 計 ※内々含む
通勤	6, 648	19, 817	18, 171	44, 636
通学	8, 370	5, 792	2, 026	16, 188
私事	18, 582	15, 909	8, 035	42, 526
業務	1, 216	3, 991	3, 558	8, 765
帰宅	30, 552	24, 041	37, 977	92, 570
不明	284	304	304	892
計	65, 652	69, 854	70, 071	205, 577

(平成３０年 東京都市圏パーソントリップ調査)

4. 1. 3 上位・関連計画の内容把握

国や神奈川県における上位・関連計画のほか、綾瀬市における上位・関連計画（総合計画、総合戦略、防災・交通・福祉・産業等各計画）の内容を確認し、綾瀬市における将来の都市づくりの方向性を多方面から把握した。

4. 2 都市交通の現状

4. 2. 1 道路交通の現状

(都) 寺尾上土棚線にて多くの交通量が見られ、特に⑧の市役所近辺で１２時間あたり約２万台と最も交通量が多い状況である。

令和元年度から3年度にかけての増減率では、東名高速道路綾瀬スマートインターチェンジの開通によって、インターチェンジに接続する（都）寺尾上土棚線や、その周辺の道路は若干の増加が見られる一方、その他は大きな変化は見られない。

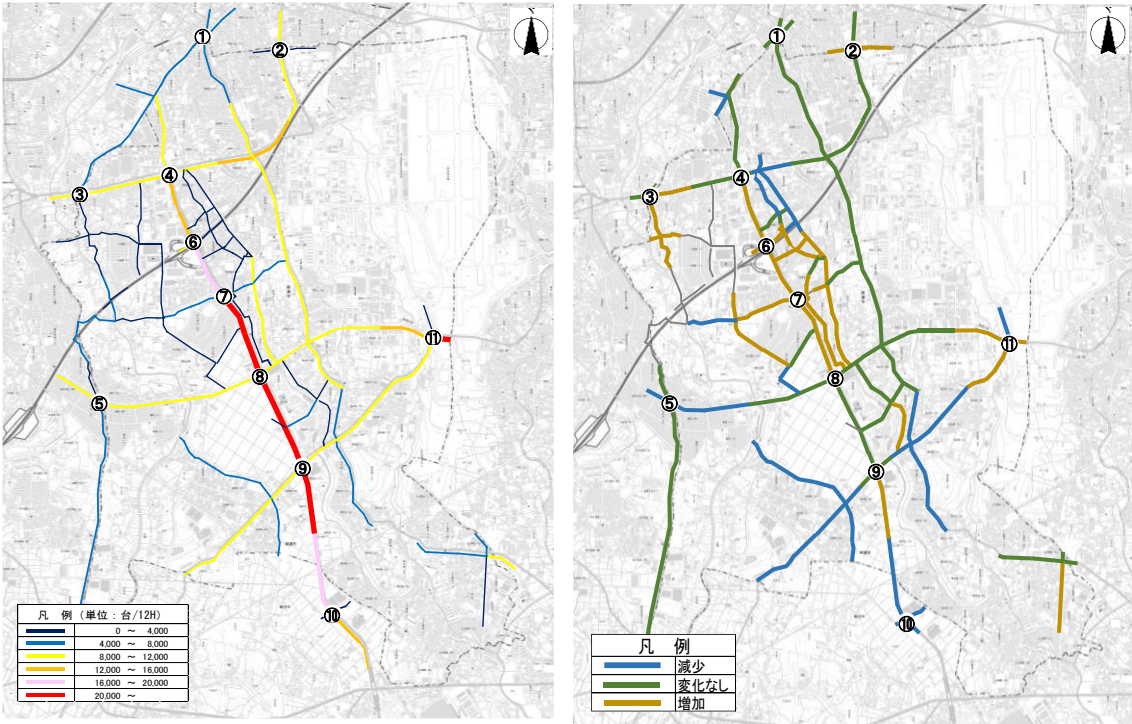


図 綾瀬市 12時間交通量（平日） 図 綾瀬市 12時間交通量変化（平日）
（令和3年度幹線道路等交通量調査）（令和3年度令和元年度幹線道路等交通量調査）

東名高速道路綾瀬スマートインターチェンジの利用台数をみると、供用開始（令和3年）した当初は約1.1万台／日であったが、供用開始1年後の令和4年4月以降は、約1.6万台／日前後で推移している。

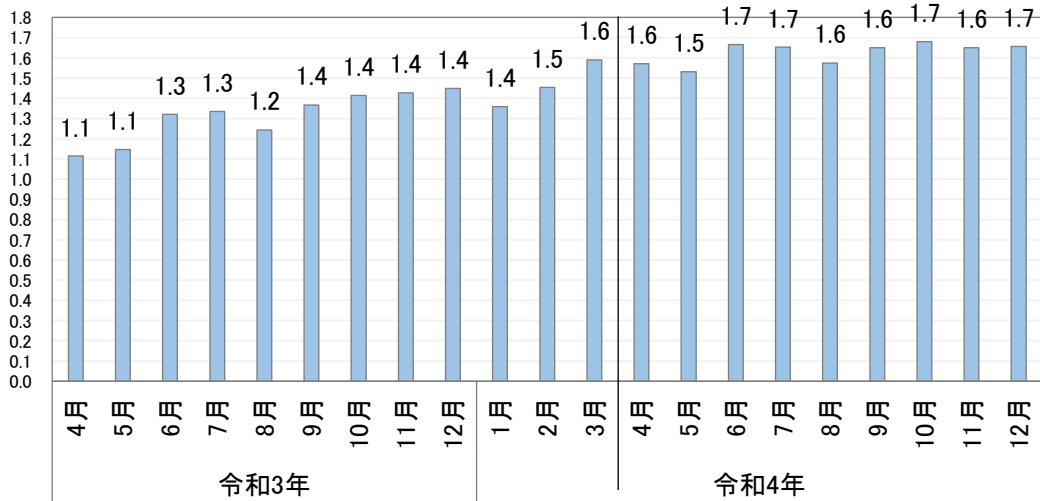


図 月平均一日あたりの綾瀬S I C利用台数（綾瀬スマートインターチェンジ地区協議会）

4. 2. 2 公共交通の現状

綾瀬市を走行する路線バスの輸送人員は次のとおりである。なお、令和2年度以降、輸送人員が大きく減少している点については、新型コロナウイルスによる影響が推察される。

表 綾瀬市に路線を有するバスの輸送人員の推移（単位：人／日）

	神奈川中央交通	相鉄バス	綾瀬市コミュニティバス※参考	計
平成29年度	19,440	12,159	504	32,103
平成30年度	19,129	11,931	514	31,574
令和元年度	18,892	11,431	494	30,817
令和2年度	14,033	8,227	353	22,613
令和3年度	13,728	8,963	415	23,105
令和4年度	14,504	9,452	449	24,405

（綾瀬市統計要覧）

4. 2. 3 現行計画の評価・検証

現行計画で位置づけられた計画について、現状の取り組み状況を整理した上で、目標及び達成目標水準について評価・検証を行った。

4. 3 都市交通の課題整理

4. 3. 1 都市交通を取り巻く社会動向

今後、綾瀬市の都市交通を考えるにあたり、解決・対応すべき課題として次の項目を整理した。

- ・高齢単身世帯の増加
- ・多様性への配慮（ダイバーシティ）
- ・環境問題、災害への対応
- ・運輸業、物流業における人手不足
- ・新型コロナウイルス感染症の影響
- ・テレワークの浸透

4. 3. 2 交通に関する技術・サービスの動向

現行計画策定から13年が経過したことから、近年の新たな技術・サービスの進展等として次の項目を整理した。

- ・自動運転・ドローン技術
- ・環境負荷の少ない車両（EV、FCV、グリーンスローモビリティ等）
- ・車両のシェアリング（自動車、自転車、小型モビリティ等）
- ・キャッシュレス決済

- ・物流の効率化
- ・M a a S
- ・ライドシェアサービス

4. 3. 3 綾瀬市全域における課題

4. 1 及び 4. 2 における調査結果のほか、今回実施した市民アンケート調査結果を踏まえて、市全域の課題を整理した。

・高齢化の進展

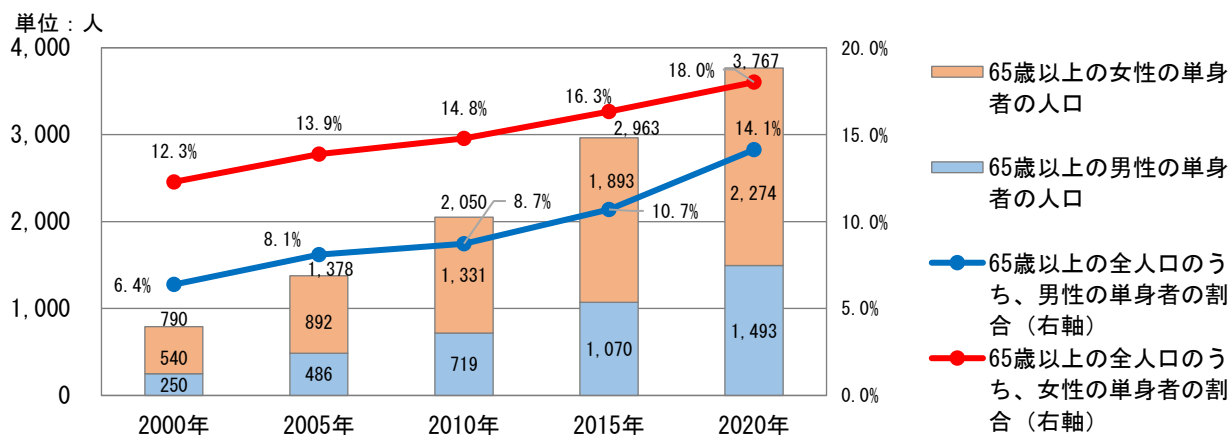
綾瀬市における 65 歳以上の割合（高齢化率）は約 28 % であり、高齢化が進んでいる。高齢者は徒歩やマイカーによる移動制限なども多く、公共交通に求められる役割が大きくなることから、綾瀬市が取り組むべき都市交通の大きな課題の一つである。

さらに、単身世帯の数も増加しており、特に一人暮らしの高齢者の割合が増加している。一人暮らしの高齢者は家族の運転する自動車による移動ができないことから、公共交通による移動のニーズが高くなることが考えられる。

表 地域別年齢 3 区分別人口・高齢化率 ※年齢不詳・厚木基地内除く

地域名	0～14 歳	15～64 歳	65 歳以上	合計	高齢化率
中央	2, 578	9, 740	3, 702	16, 020	23. 1%
綾北	1, 448	7, 219	3, 702	11, 835	26. 8%
寺尾	2, 311	11, 077	5, 668	19, 056	29. 7%
早園	1, 809	7, 341	3, 101	12, 251	25. 3%
綾西	807	3, 550	2, 391	6, 748	35. 4%
綾南	1, 899	9, 708	5, 156	16, 763	30. 8%
合計	10, 852	48, 635	23, 186	82, 673	28. 0%

（令和 2 年度 国勢調査）



- ・若年層・高齢層の高い公共交通ニーズ

綾瀬市における代表・端末交通手段分担率は、約50%が自動車利用となっており、他の自治体と比べても自動車の利用割合が高い傾向にある。また、平成20年と平成30年の経年変化では、自動車は横ばい、徒歩・二輪はやや減少、バスは増加している。

表 綾瀬市 代表・端末交通手段分担率

	徒歩	自転車	バイク	バス	自動車	計
H20割合(現行計画)	26.5%	10.0%	5.8%	5.9%	51.8%	100.0%
H30割合	26.0%	9.0%	4.8%	9.6%	50.6%	100.0%

(平成20年・平成30年 東京都市圏パーソントリップ調査)

さらに、今回実施した市民アンケート調査結果より、年齢別の平日における主な交通手段では、30～70歳代の自家用車利用が約5割を占める一方で、10・20歳代及び80歳代以上では、路線バスやコミュニティバスの利用割合が高い傾向にある。このことから、学生などを含む若年層、高齢者において公共交通のニーズが高いことが分かる。

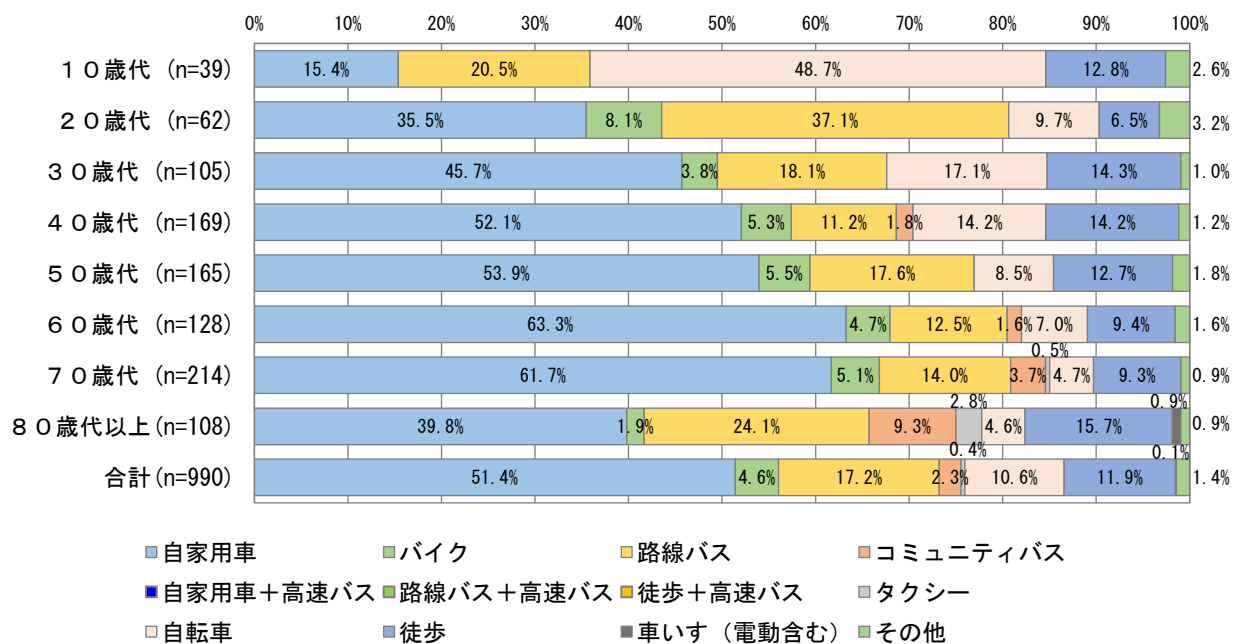


図 年代別 主な交通手段(平日)

(「綾瀬市総合都市交通計画」改定に関するアンケート調査(令和5年7～8月実施))

- ・新型コロナウイルス感染症による路線バスの輸送人員の減少

綾瀬市内を運行するバス路線の輸送人員の推移を見ると、新型コロナウイルス感染症が蔓延した令和2年以降は減少し、さらに増減率においても、輸送人員の回復はコミュニティバスよりも路線バスの方が鈍い傾向にある。コミュニティバスは私事目的の高齢者など、自家用車を利用しない方が多く利用する一方で、路線バスは通勤目的の利用が多く、新型コロナウイルス感染症の蔓延を機にマイカー・自転車等に転換したり、テレワークの普及による通勤者が減少していることも要因として推察される。

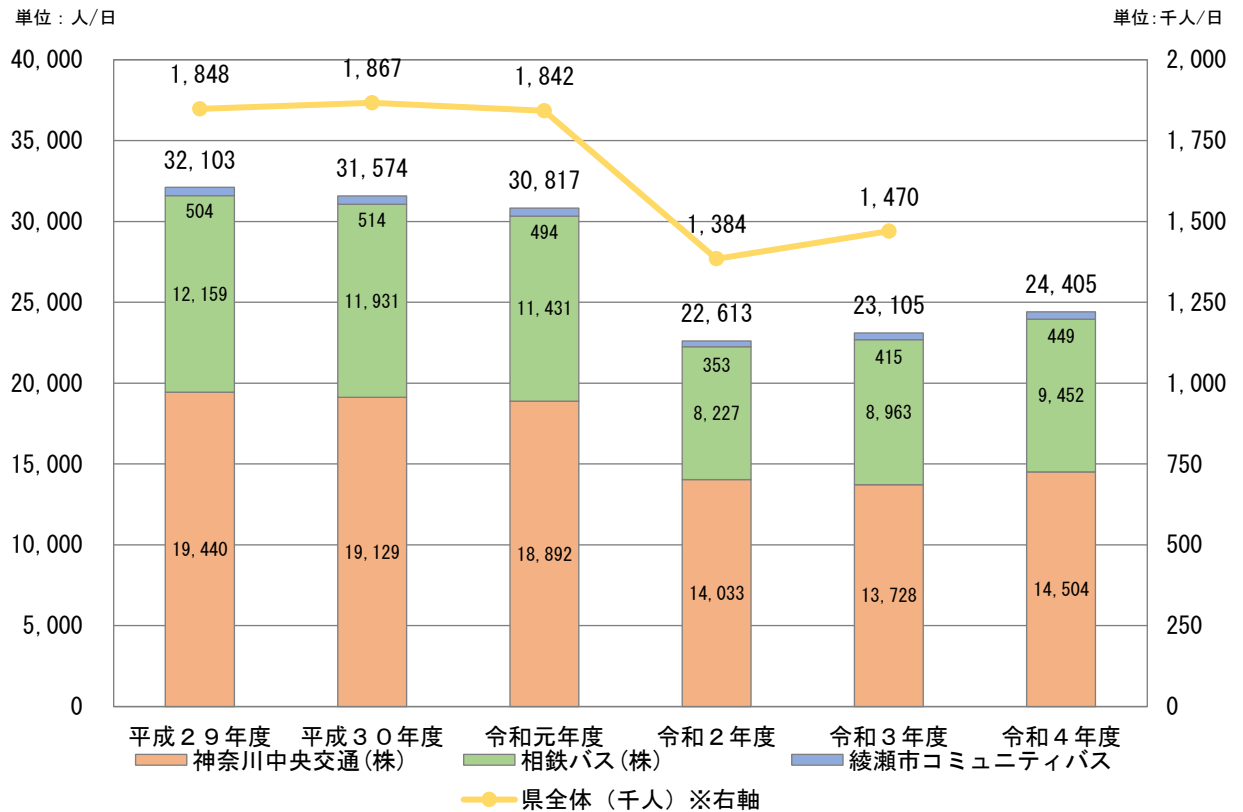


図 綾瀬市に路線を有するバス・県全体の輸送人員の推移(単位：人/日)

(綾瀬市に路線を有するバス：綾瀬市統計要覧)

(県全体：神奈川県交通関係資料集 令和4年度版)

・自動車交通量の適切な配分

自動車交通量は(都)寺尾上土棚線、県道40号、(都)早川本蓼川線、県道45号などの幹線道路に交通量が集中している。また、交通事故の件数は年間200～300件で推移している。

引き続き、自動車交通量(特に通過交通)を幹線道路に誘導し、生活道路への流入を防ぐことが、交通事故の件数を減らすことに繋がると考えられる。

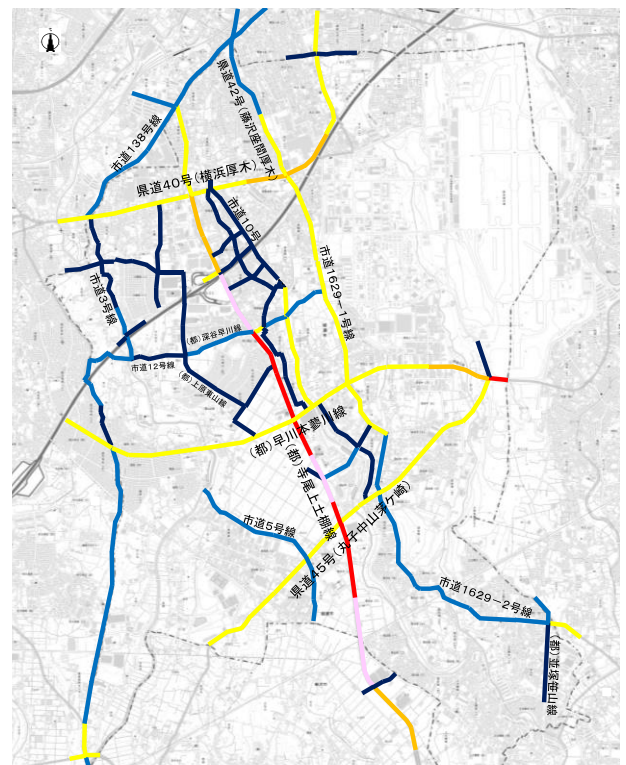


図 幹線道路交通量(平日)

(令和3年度幹線道路等交通量調査結果)

単位：件

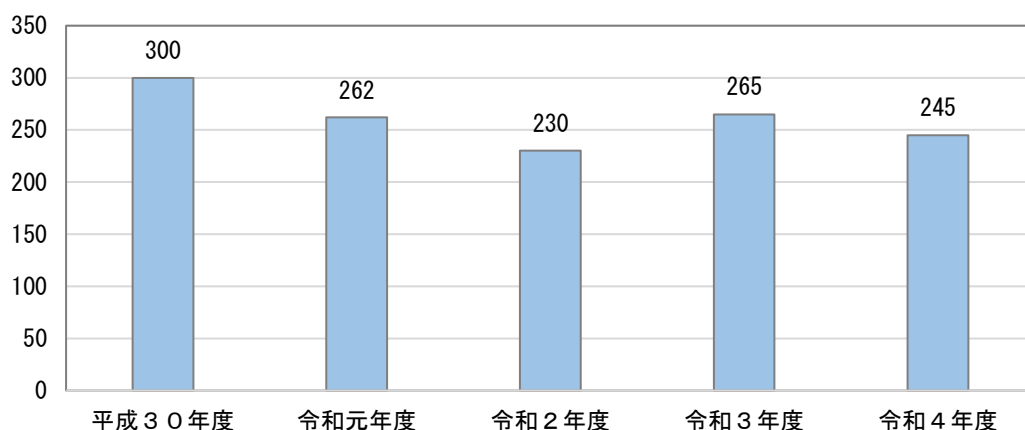


図 綾瀬市内の交通事故件数

・貨物自動車の増加

綾瀬スマートインターチェンジ周辺地域には大型の物流施設が集積しており、これら施設の増加に伴い、今後も貨物自動車が増加することが考えられるため、引き続き、貨物自動車の導線を制御し、生活道路への侵入を抑制していくための対策が求められている。

・市民の交通に対する意識（アンケート結果）

① 路線バス・コミュニティバスの利用満足度・今後の重要性

路線バス・コミュニティバスの利用満足度では、「運行便数」や「運行時間帯」について「不満」を示している割合が高い傾向にあり、今後の公共交通整備の重要性では、「自力移動が困難な人のバス利用しやすさ」や「周辺駅～市内のバス連絡利便性の向上」について、特に重要だと捉えている割合が高い傾向にある。

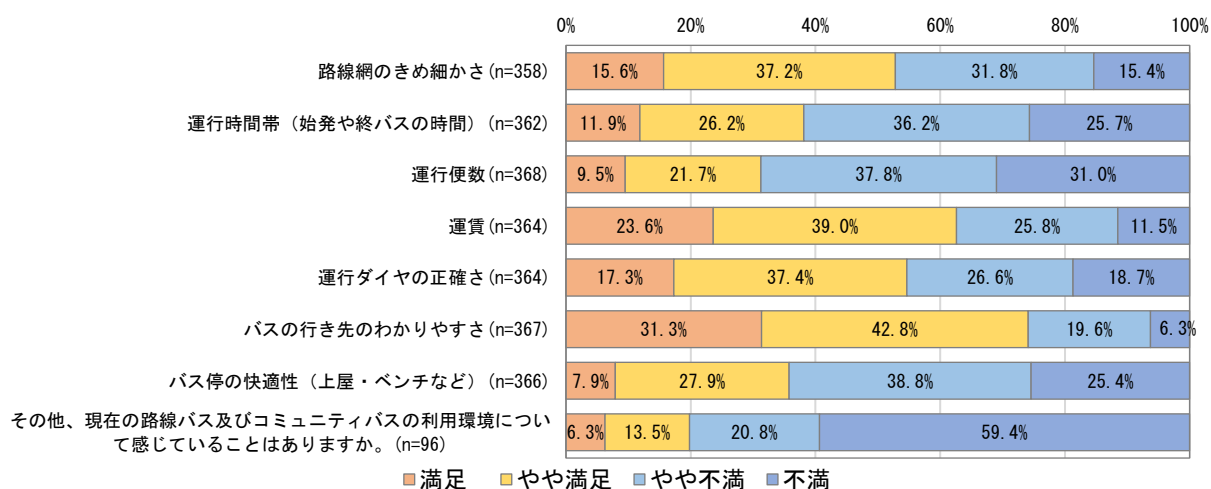


図 バスの利用環境における満足度

（「綾瀬市総合都市交通計画」改定に関するアンケート調査（令和5年7～8月実施））

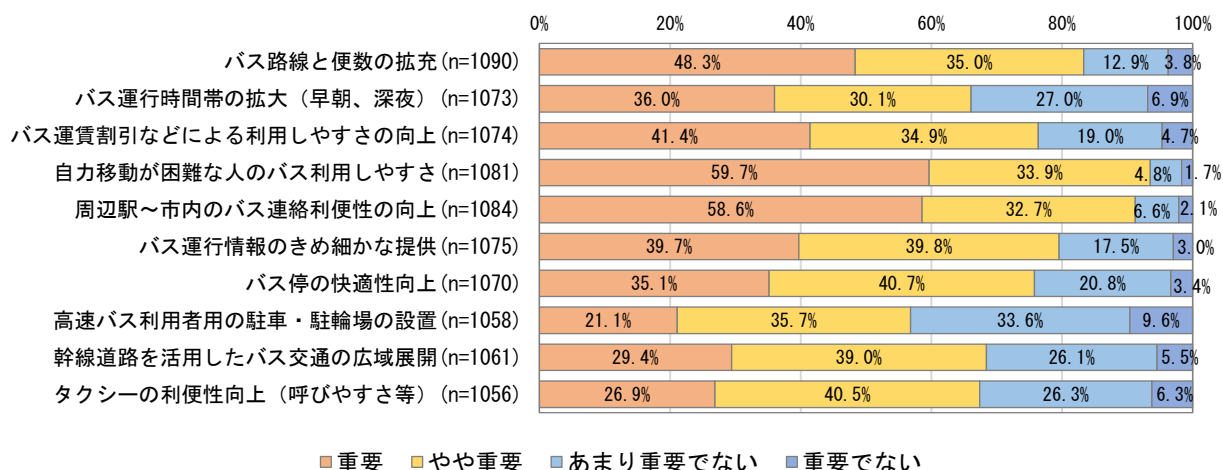


図 今後の公共交通整備に関する重要度

（「綾瀬市総合都市交通計画」改定に関するアンケート調査（令和５年７～８月実施））

② 市内の道路状況の満足度・今後の重要性

道路状況の満足度では、「運行安全性」や「道路や歩道の広さ」など物理的な面での不満が高い傾向にあり、今後の道路整備の重要性では、「自転車走行環境」、「生活道路の歩道整備」、「段差解消」が特に重要だと捉えている割合が高い傾向にある。

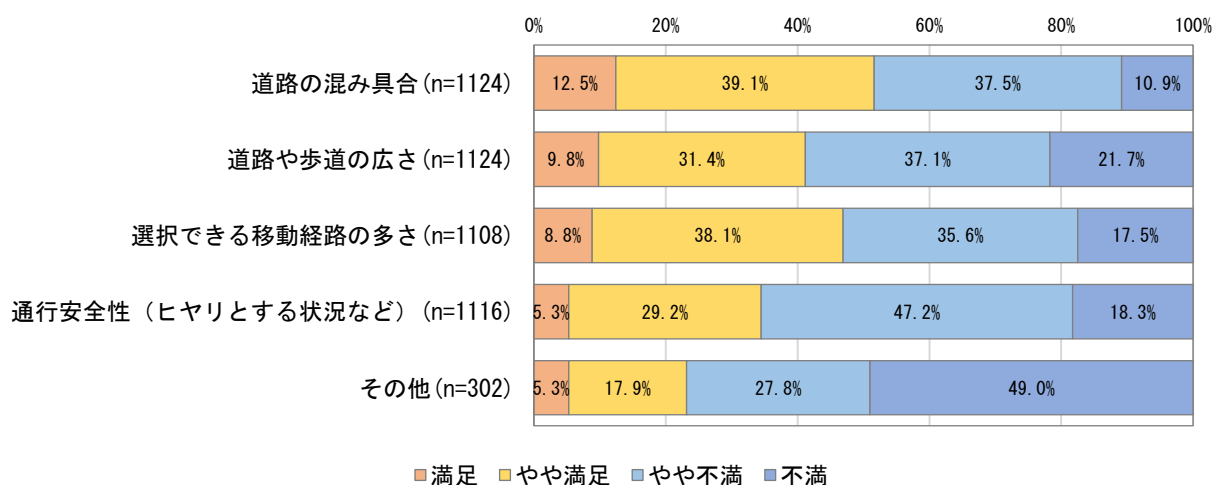


図 道路状況に関する満足度

（「綾瀬市総合都市交通計画」改定に関するアンケート調査（令和５年７～８月実施））

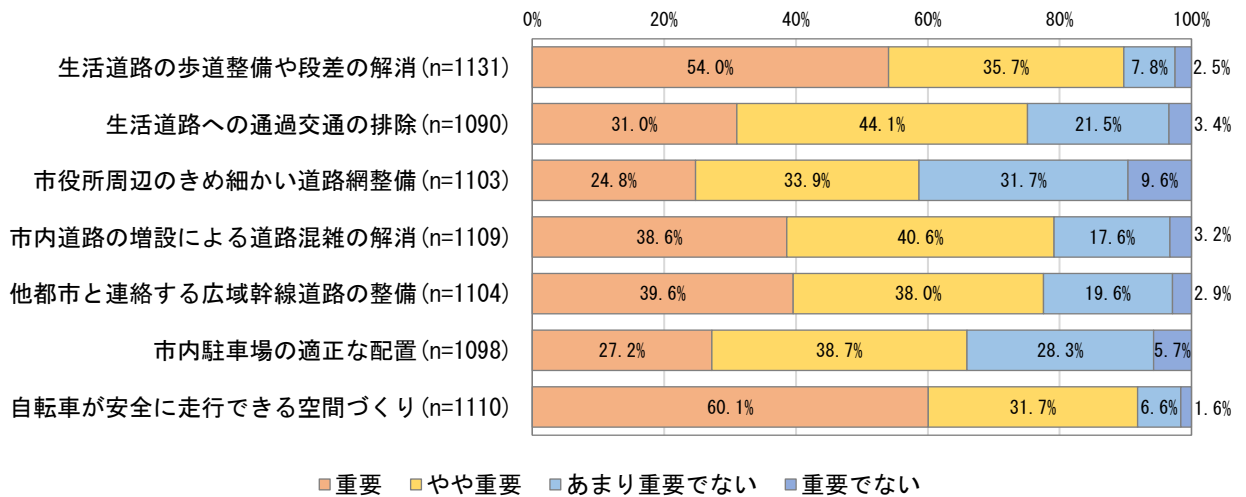


図 今後の道路整備に関する重要度
 (「綾瀬市総合都市交通計画」改定に関するアンケート調査 (令和5年7～8月実施))

4. 3. 4 地域別の課題

あやせ都市マスタープランの地域別構想として示されている6つの地域別に現状を踏まえ、それぞれの地域における課題を「幹線道路の交通流の円滑化」「歩行者・自転車の安全性の確保」「公共交通の利便性の向上」に集約した。

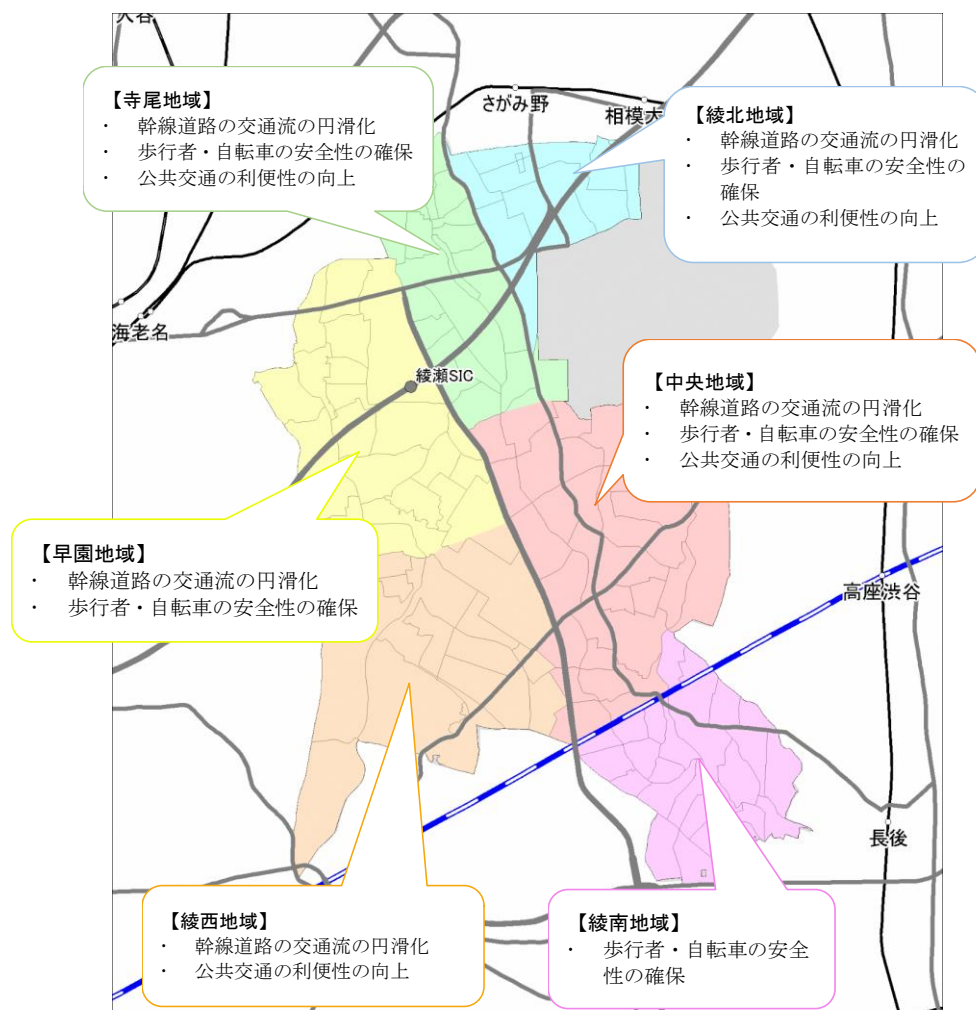


図 地域別の課題

4. 3. 5 綾瀬市における都市交通の課題及び対応方針

計画の改定にあたり整理しておくべき都市交通の課題を、次のとおり整理した。

- 社会動向等を踏まえた課題
 - ・ 高齢単身世帯の増加
 - ・ 多様性への配慮
 - ・ ドライバー不足
 - ・ 新型コロナウイルス感染症の影響
 - ・ 新たな技術・サービスへの対応 等
- 市全域の課題
 - ・ 交通弱者の移動の確保
 - ・ 幹線道路の整備
 - ・ 自動車交通量の適切な配分
 - ・ 貨物自動車への対応 等
- 地域別検証からの課題
 - ・ 幹線道路の交通流の円滑化
 - ・ 歩行者・自転車の安全性の確保
 - ・ 公共交通の利便性の向上 等

上記課題に対する対応方針として次の３点を整理し、次年度以降はこれに基づき、目標や具体的な施策等を検討することが求められる。

- 公共交通のあり方の検討

高齢者等の交通弱者の移動の確保や公共交通の利便性の向上を目指し、地域ごとのニーズやドライバー不足等の課題を考慮しながら、最適な公共交通のあり方を検討する。
- 道路ネットワークの検討

自動車交通量の適切な配分による幹線道路の混雑解消、生活道路への進入抑制による安全性の確保を目指し、将来交通量推計等により最適な道路ネットワークを検討する。
- 新たな技術等への対応

新たな技術やサービスの進展に対応し、その役割や必要性等を見極め、対応を検討する。

4. 4 市民意識アンケート

- ・ 調査地域：綾瀬市全域
- ・ 調査対象：１５歳以上の市民 標本数 ３，０００ 人
- ・ 抽出方法：住民基本台帳データを基に、年代別・地域別比率を考慮した無作為抽出
- ・ 調査方法：郵送配付－郵送及びウェブ回答
- ・ 回収枚数：１，１６２票（うち、紙 ７８３票、WEB ３７９票）
- ・ 回収率 ：３８．７％